



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

- 第35週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病
- 病原体（ウイルス）検出情報（8月）

第35週の感染症情報（8月26日(月)～9月1日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位5疾患）（5週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	2.82	→～↓	→～↓	→～↓	↓
2	感染性胃腸炎	2.21	→	↑	→	↑
3	ヘルパンギーナ	1.12	→～↓	→～↓	→	↓
4	突発性発しん	0.53	↑	↑	↑	→
5	RS ウイルス感染症	0.29	↑	↑	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

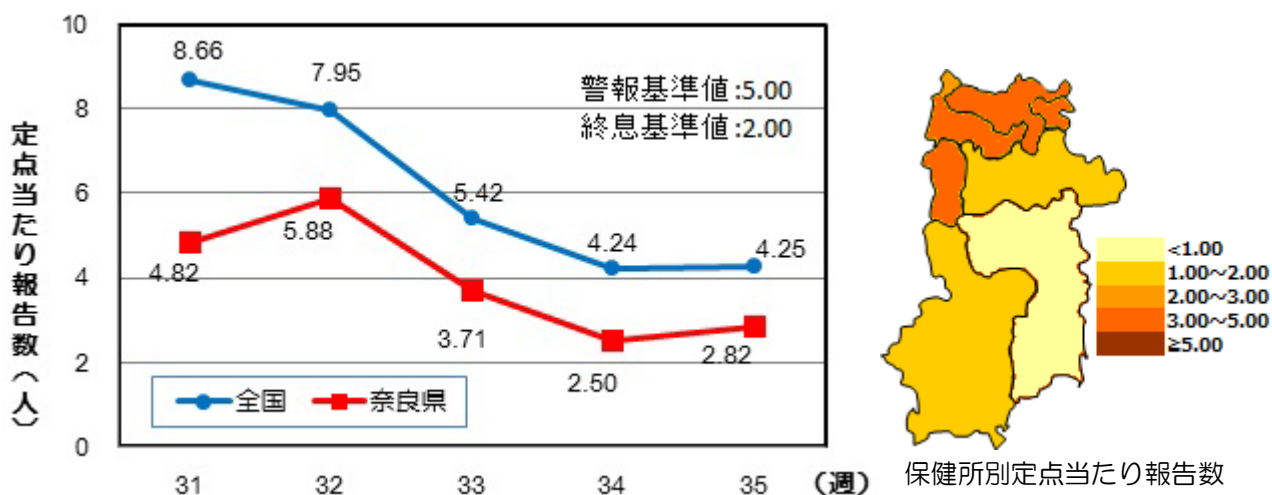
県北部地区概況 報告数（34→35週）は105→133例と推移した。上位5疾患は
 ①手足口病（34→58例）（定点あたり3.41と警報継続基準値を上回っている。）
 ②感染性胃腸炎（26→36例）、③ヘルパンギーナ（16→20例）、④突発性発しん（7→9例）、⑤水痘（9→7例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が3例あった。基幹定点の報告は細菌性髄膜炎が1例あった。（有山 記）

県中部地区概況 報告数は112例で、前週報告の125例から減少。上位5疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④突発性発しん、⑤A群溶連菌咽頭炎の順。手足口病の定点当たりの報告数は2.57と、減少し続けているが（桜井保健所管内；1.86、葛城保健所管内；3.29）、警報レベル。また、インフルエンザ定点から、葛城保健所管内より1例（20～29歳症例）報告があった。A群溶連菌咽頭炎の報告数（6例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（7例）も、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（36例）は、3週連続での減少。感染性胃腸炎の報告数（32例）は、やや減少。ヘルパンギーナの報告数（17→20→17例）は、依然増減の繰り返し。桜井保健所および葛城保健所両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

県南部地区概況 報告数（34→35 週）は 22→14 例と減少。報告のあった疾患は、① 感染性胃腸炎（4→7 例）、②RS ウイルス感染症（0→2 例）、③手足口病（8→2 例）、④突発性発疹（3→2 例）、⑤ヘルパンギーナ（2→1 例）であった。（柳生 記）

《流行感染症情報：手足口病》

第 35 週の奈良県全体としては、定点あたり報告数は 2.82（報告数 96）となり依然として警報発令中です。報告数は増加し、郡山保健所、葛城保健所で警報発令中です。内吉野保健所は今週警報終息基準値（2.00）を下回り、警報は解除となっています。また、奈良市保健所では定点あたり報告数は 4.00 で第 34 週の 1.57 から上昇し、再度警報基準値に迫っています。



手足口病に関するQ&A (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>

予防対策についても記載があります（Q4）。

【病原体（ウイルス）検出情報（平成25年8月）】

病原体定点医療機関から保健研究センターに搬入された検体について、8月に検出したウイルスは以下のとおりです。

（平成25年8月検出分）

検出病原体		北部	中部	南部	臨床診断名
アデノ	1		3		夏風邪症候群(3)
アデノ	2	1			咽頭結膜熱(1)
アデノ	5		1		扁桃炎(1)
エンテロ	71		2		手足口病(2)
コクサッキー	A6	2	5		咽頭炎(2) 手足口病(5)
コクサッキー	A8	3	2		夏風邪症候群(1)、手足口病(1) ヘルパンギーナ(3)
コクサッキー	B3		3		ウイルス性髄膜炎(1) 夏風邪症候群(1)、ヘルパンギーナ(1)

感染症情報センターホームページ <http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

